

一

次の①～⑤の傍線部のカタカナを漢字に、⑥～⑩の傍線部の漢字をひらがなに、それぞれ直しなさい。

- ① 念のためヨビの電池を用意する。
- ② 学問にセンシンする。
- ③ 薬のおかげでゼンカイした。
- ④ 中国にトコウする。
- ⑤ ハンドルをソウサして動かす。
- ⑥ 候補者の名前を連呼する。
- ⑦ 仏様を拝む。
- ⑧ 紙面を刷新する。
- ⑨ 会社を興す。
- ⑩ 常夏の国、ハワイ。

二 次の1～5について、意味に合う四字熟語を作りなさい。答えとなる漢字は①～④の四角で囲まれた中からそれぞれ選ぶこと。(同じ漢字は一度しか使うことはできません)

5	4	3	2	1
①	①	一	①	①
②	耕	②	②	②
③	③	③	得	③
火	④	④	④	水
意味 動作がひじょうにすばやいこと	意味 のんびりと気ままに暮らすこと	意味 同時に二つの利益を手に入れること	意味 得になることと損になること	意味 物事を自分の利益になるように取りはからうこと

①	電 我 馬 晴 有 花 大 無 利
②	光 拳 害 耳 器 味 鳥 名 田
③	未 石 転 流 引 多 大 雨 両
④	失 才 土 読 得 異 倒 踏 敵

三 次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

環境問題への対応は「自然環境」対「人間社会」という図式でとらえられがちである。しかし、この図式が環境問題の見方を歪め、方向を見えにくくしてきたと思う。

こういう図式があるから、「人間だって自然でしよう」という人がある。そのとおりだが、その先を考える必要がある。それなら人工とはなにか。すべての人工物は、自然である人がつくったんだから、それも自然だ。ここまでいけば、²屁理屈であろう。

人工とは、人間の意識がつくり出したものをいう。都市はその典型である。都会には、人間のつくらなかったものは置かれていない。樹木ですら都会では人間が「考えて」植える。草が「勝手に」生えると、それを「雑草」というのである。

他方、人間の体は自然に属している。身体はAにつくったものではないからである。自分の身体がどんな形になっていようと、それは自分のせいではない。まさに自然のなせるわざなのである。

自分の身体が人工ではないということを、都市社会ではできるだけ「意識させない」。

I 黒い髪は染め、唇は赤くし、爪は切り、ひげは剃り、裸では暮らさず、服は始終取り替える。そうしていれば、身体はなんとなく意識の思うようになると思えるからであろう。もつと徹底して、美容整形でもすれば、身体は人工だという印象はさらに強くなる。つまりこれは環境問題であろう。身体という自然を、意識が思うようにできると思っているからである。それなら意識とはなにか。ヒトの脳でとくに発達した働きである。その働きが言葉をあやつり、都市をつくり出し、いわゆる近代社会をつくる。遺伝子からすれば、ヒトとほとんど違わないチンパンジーは、そのどれもやらない。脳が小さいからである。つまり環境問題を個人に戻せば、それは心と身体³の対立という、たいへん古典的な問題に戻る。意識とはつまり心だからである。環境問題を追求していくと、原理的には自分の心身の問題に戻る。

⁴ 身体が自然だという説明をしよう。われわれの身体は、じつは生態系である。なにしろ一億以上の生物が棲みついていていられるからである。消化管のなかには、大腸菌をはじめとして、じつに多くの細菌が棲んでいる。食物といっしょに外から入ってくるから、そんなものは嫌いだといっても、どうにもならない。腸内細菌叢⁵、つまり腸内の生態系のバランスが崩れると、たいいていの人は腹の具合が悪いという。腹の具合が悪いのは、その意味では、かならずしも「自分のこと」ではない。腸内に棲む生物仲間のこと、つまり環境問題なのである。人間は一人で生まれて、一人で死ぬ。ときどきそう威張る人があるが、生物学的にはそれは間違っている。意識がそういつているだけである。死んだ人を火葬すれば、じつは一億玉砕である。消化管に限らない。気道にもさまざまな生きものが棲んでいる。エイズになると、それが原因となって、肺炎⁶を起こしたりする。しかし都会の人は日常それを「実感」してはいないはずである。身体はその意味では意識されないからである。

そればかりではない。去年の今日という日を覚えてみよう。その日、私たちの身体は、今年の今日と同じように、七割近く水でできていたはずである。それじゃあ、去年身体に入ってい

た水で、今年の今日まで残っているのは、何割あるか。ほとんど残っていない。この一年で、自分が何トンの水を飲んだか、よく考えてみればいいのである。身体は川と同じである。川はいつでもそこにあるが、水はたえず入れ替わっている。

水は入れ替わるにしても、堅い部分は違うでしょうが。残念でした。それもどんどん入れ替わる。小腸の表面を覆う上皮は、人体でいちばん入れ替わりが早い。三日で入れ替わってしまうのである。Bにいうなら、去年の私と今年の私は、ほとんど別物である。意識はそんなことはいいわい。去年の私も、今年の私も、「同じ私」だという。身体については、意識はほとんどデタラメの嘘をいうのである。

自分を川だという実感で暮らす人が、世界にどれだけいるか。自分は生態系だと思っている人が、どれだけいるだろうか。そういう人たちに、環境問題を説くむずかしさは、十分におわかりいただけるのではないだろうか。自分の身体であるのに、その見方がこれだけ実際と違っているのでは、身体は自然だといわれたって、なにを变なことをいう、とふつうは思うに違いないのである。環境とはあっちの話だと思っている。そういう人が多いはずである。あっちではない。じつはこっちなのである。

- (a) しかし、それは身体を考慮からはずしていいということではない。
- (b) ふつうに自然というとき、それは人体ではない、
- (c) 内なる自然もまた、立派な自然である。
- (d) その意味でこそ、「人間は自然」なのである。
- (e) 外の自然を指している。

一方、地球上であれば、人間が小さい手をつけない「外の自然」などありえない。仮にあったとしても、人間と関わり合いをもたない自然は、人間にとつては存在しないのと同じである。①逆に、人間が自然の一部である以上、生きているだけでも自然に影響を与えているに違いない。つまり人間対自然という図式は成り立たないのである。

それじゃあどうなっているのか。自然と対立するものとしてとらえられている人間とは、現代の人間、つまり都市社会の人である。アマゾンの奥地で裸で暮らしている人たちが、人間対自然などと考えているわけではなからう。②対立しているのは、じつはヒトの脳の代表的な働きである意識と、意識がつくり出したものではない自然である。個人についていうなら、意識とXが対立しているのである。典型的な例を挙げよう。生死は体のこと、つまり自然だから、われわれは自分がいつ、どのように死ぬか、それを知らない。II意識はそれが気に入らない。だから死ぬのはイヤだといい、怖いというのである。③いくら意識がそう思っても、いずれはだれでも死ぬことは、大丈夫、保証する。人間であることの死亡率は、一〇〇パーセントなのである。

自然と人工が対立するものとなり、世界が二つに分かれるようになったのは、都市化が進んだためである。私が子どもだったころの日本人は、自然の側と社会の側を上手に行き来してい

た。そもそも「環境」なんて言葉は使わなかった。④人間の暮らしというのは、もともとそういうものだったし、日本人の暮らしはとくに自然と人工を自由に行き来する傾向が強かった。人口の過半数が田畑を耕して農作物をつくっていた時代、つまり私が生まれた昭和十年代ころまでは、いやでも自然につきあわされていたから、自然と人間社会を往復する必要性も、往復するときの加減もよくわかっていたのである。⑤

田畑を自分の思いどおりにしようとしても、なかなかそうはいかない。自然という相手の都合がある。戦前の東北なら、働きのよし悪しに関係なく、ヤマセが吹く年には冷害に悩むことになる。こうした経験を通じて、日本人は自然という相手について学んでいたのである。そこから「手入れ」という思想が生まれてきた。このあたりの感覚は、西欧とも中国とも違う。繊細な自然に育まれた独自の日本文化がそれによって生じた。

いまでも自然の側へ行ったり、人間社会の側へ戻ったり、両者のあいだで動いている人がもちらんいる。III登山家の野口健さんは、ボランティアでエベレストの清掃活動をしている。その報告によれば、テント、酸素ボンベ、電池、空き缶やラーメンの袋、漫画の本などがエベレストでも放置されているという。酸素ボンベの放置が発覚すれば罰金がYせられるそうだが、それでもボンベを放置する登山隊はあとを絶たないらしい。エベレストという大自然に挑む登山隊が自然保護に配慮していないというのは皮肉な話である。野口さんの心情を私なりに解釈すれば、人間が自然と関わってしまった以上、その自然と行き来して、自分なりに面倒を見なくてはという意識が根底にあるのだと思う。過激な「純粋環境派」の人たちなら、エベレストの環境を維持するためには、登山を禁止すればいいというかもしれない。

野口さんのような立場にせよ、純粋環境派の立場にせよ、対象がエベレストなら、自然環境を守るということの意味が見えやすい。しかし、これだけ都市化の進んだ日本では、「自然環境を維持することが大切だ」といわれても、どうしたらいいのかわからない人が大多数だろう。この「わからない」ということ自体が、すでに人間が都市化したことを示している。人工の環境で暮らしているから、自然環境の維持がどういふことなのか、わからなくても生きていける。昔は、「わからない」ではすまなかった。田畑を耕していたときには、イナゴという自然がわからなければ、米はつくれなかった。その辺の感覚がおよそ変わってしまったのである。古典的な対立が「人間対環境」であるなら、ここでの私の立場は、それとはいわば九〇度、直角に話がずれている。私の見方は意識対身体、都市対自然ということである。意識と都市は同じもので、身体と外の自然は同じものである。

(養老孟司『いちばん大事なこと』による)

《注》

* ヤマセ…山を越えて吹いてくる風のこと。

問一 傍線部1「この図式が環境問題の見方を歪め、方向を見えにくくしてきたと思う」とありますが、筆者がこのように述べているのはなぜですか。その理由として最もふさわしいものを、次のア～オの中から選び、記号で答えなさい。

- ア 自然対人間という図式よりも、自然対人工という図式を考えるべきだから。
- イ 自然対人間という図式によって、人間が自然と親しむ機会がなくなっていくから。
- ウ 自然対人間という図式があっても、都会には人間の植えた草や樹木があるから。
- エ 自然対人間という図式は、そもそも成立しないものだと考えているから。
- オ 自然対人間という図式のために、環境問題は深刻さを増していったから。

問二 傍線部2「屁理屈」の本文中の意味として最もふさわしいものを次のア～オの中から選び、記号で答えなさい。

- ア ちよつとした冗談
- イ 勝手なこじつけ
- ウ 頑固なこだわり
- エ 筋道だった道理
- オ 立派な主張

問三 空欄 A・B にあてはまる語句として、最もふさわしいものを次のア～オの中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。ただし、同じ記号を用いてはいけません。

- ア 論理的
- イ 意識的
- ウ 表面的
- エ 理想的
- オ 学問的

問四 空欄 I・III にあてはまる語句を次のア～オの中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。ただし、同じ記号を用いてはいけません。

- ア ところが
- イ あるいは
- ウ むしろ
- エ たとえば
- オ だから

問五 傍線部3「心と身体の対立」とは具体的に説明するとどのようなことですか。その説明として最もふさわしいものを、次のア～オの中から選び、記号で答えなさい。

- ア 人間が、身体をはじめ、すべての人工物は自然であると考えていること。
- イ 人間が、身体は意識によって支配できるものだと考えていること。
- ウ 人間が、脳という身体の一部だけで社会全体を作っていると考えていること。
- エ 人間が、意識の底では身体は自然に属していると考えていること。
- オ 人間が、生態系の一部でありながらも都市では孤独であると考えていること。

問六 傍線部4「身体が自然だ」と筆者が考えているのは、なぜですか。その理由として最もふさわしいものを、次のア～オの中から選び、記号で答えなさい。

- ア 身体は、多くの細菌が棲みつき、共生する場であるとともに、自然と同じように常に変化しながら存続しているものだから。
- イ 身体は、さまざまな生きものが相互に関係しながら成り立っており、川のように一つの流れが体全体に広がっていくものだから。
- ウ 身体は、意識とは別のところにあり、心で感じることが体内の生物や身体組織に影響を与えることはないから。
- エ 身体は、生態系のバランスが崩れると体調を崩してしまうほど繊細であり、自然界のように入れ替わりが激しいものだから。
- オ 身体は、化粧をしたり、服を着るなどの「手入れ」が必要であるが、自然も同じように定期的に「手入れ」をすることが大切だから。

問七 傍線部5「その意味」の指す内容として、最もふさわしいものを、次のア～オの中から選び、記号で答えなさい。

- ア 身体は多くの細菌が棲みついていて生態系という意味。
- イ 身体の中の細菌は人間が好んで取り入れたのではないという意味。
- ウ 自分の身体と関係のない細菌が腹痛を起こしているという意味。
- エ 人間が自分の身体が生態系だということを意識していないという意味。
- オ 身体の一部に不具合が生じるとそれが全体に及ぶという意味。

問八 傍線部6「環境問題を説くむずかしさ」とありますが、なぜ「むずかし」いのですか。その理由として最もふさわしいものを、次のア～オの中から選び、記号で答えなさい。

- ア 環境問題は、自然と接する機会の減った現代の人間にとって、予想を超えた事態となっているから。
- イ 環境問題は、人間対自然という図式があると思ひ込んだ人に、いたずらに不安を与えてしまうものだから。
- ウ 環境問題は、身体は自然だということを日常生活の中で意識していない人が起こしているものだから。
- エ 環境問題は、自分の身体の中からも起こっている身近なものだということを認識していない人が多いから。
- オ 環境問題は、都市と自然の問題なのに、都市に住む人間は自然について関心を持たないから。

問九 文中の(a)～(e)を並び替えたものとして正しいものを、次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- | | | | | | | | | | |
|---|-----|---|-----|---|-----|---|-----|---|-----|
| ア | (c) | ↓ | (a) | ↓ | (b) | ↓ | (e) | ↓ | (d) |
| イ | (c) | ↓ | (d) | ↓ | (a) | ↓ | (b) | ↓ | (e) |
| ウ | (b) | ↓ | (c) | ↓ | (d) | ↓ | (a) | ↓ | (e) |
| エ | (b) | ↓ | (e) | ↓ | (a) | ↓ | (c) | ↓ | (d) |
| オ | (b) | ↓ | (e) | ↓ | (c) | ↓ | (a) | ↓ | (d) |

問十 この文章は、次の一文が抜けています。入るべき箇所を本文中の①～⑤の中から一つ選び、数字で答えなさい。

そこでは自然のなかに人間がすっぱり埋まっているからである。

問十一 空欄 X にあてはまる語を、本文中より漢字二字で抜き出して答えなさい。

問十二 空欄 Y にあてはまる漢字一字として、最もふさわしいものを次のア～オの中から選び、記号で答えなさい。

- ア 加 イ 布 ウ 付 エ 補 オ 科

問十三 傍線部 7 「どうしたらよいのかわからない人が大多数だろう」とありますが、なぜですか。その理由として最もふさわしいものを、次のア～オの中から選び、記号で答えなさい。

- ア 自然環境は守るものという考えが生まれ、自然は行き来するものではなく大事に見守るものとなったから。
- イ 都市化が進んだことによって、人間が自然と関わり合う必要性がなくなり、自然について学ばなくなったから。
- ウ 何事も思い通りにしたいと人間が思うようになったため、自然の都合を考えることが面倒になったから。
- エ 「環境」という言葉に象徴されるように、自然と人間社会とは対立するものとして考えられるようになったから。
- オ 人工の環境で暮らすようになった人間は、自然と付き合わなくても生活しているほど豊かになったから。

問十四 本文の内容と合致しないものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 人間は一人で生まれ、一人で死ぬという考え方は、身体は自然の一部だという観点から考えると間違っている。
- イ 登山家の野口さんは、昔の日本人のように自然と人間社会を往復しながら、自然と付き合っている人物である。
- ウ 人間の細胞は常に入れ替わっているものだが、それを意識している人はほとんどいない。
- エ 現代の都市社会において、自然と人間が対立していると考えられていることが環境問題の原因である。
- オ いつ死ぬのかということは人間の意識では理解できない範囲であるため、人々は死への恐怖を感じる。